

富山市民意識調査結果報告書
(概要版)

平成 22 年 12 月

富 山 市

目 次

| | |
|---------------------|---|
| 1. 調査の概要..... | 1 |
| 2. 富山市の住み良さ | 2 |
| ① 富山市の住み心地 | |
| ② 富山市への定住意識 | |
| ③ 富山市に住み続けたい理由 | |
| ④ 富山市外へ引っ越したい理由 | |
| 3. 施策の満足度 | 4 |
| 4. 今後のまちづくりの重点..... | 5 |
| 5. 市民の普段の取り組み..... | 6 |

この冊子のみかた

- 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計が 100%にならない場合がある。
- 複数回答の場合は、比率の合計が 100%を上回る。
- Nは回答者数を示したものである。

1

調査の概要

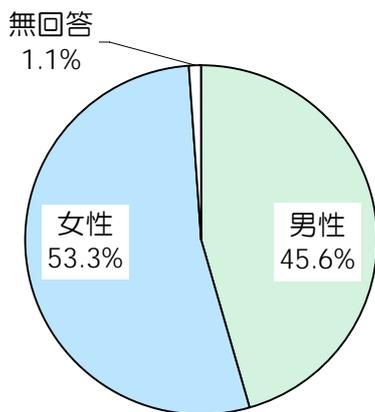
富山市は、市の将来像やまちづくりの指針となる『総合計画』を策定し、その施策の推進に努めています。

この意識調査は、市民の皆様へ、施策の満足度や市政への要望などについてのお考えやご意見をお伺いし、『総合計画』や今後の市政の推進に反映させていくために実施しました。

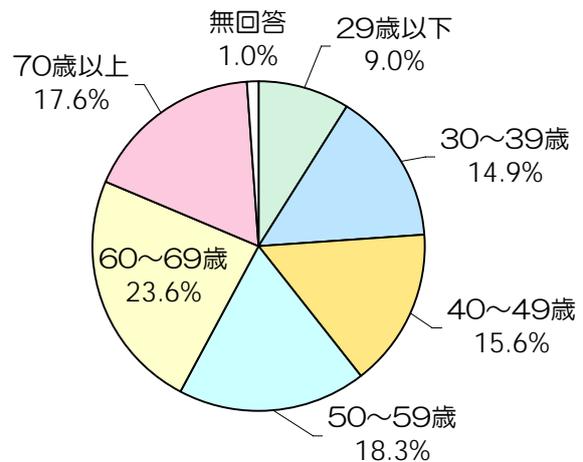
無作為に抽出した18歳以上の市民の皆様6,000人に依頼し、2,563人、42.7%の方から回答をいただきました。回答いただきました方の内訳は次のとおりです。

調査回答者内訳

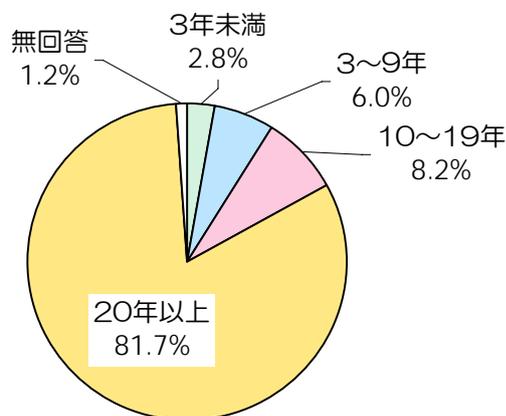
【 性別 】 N=2,563



【 年齢別 】 N=2,563



【 居住年数別 】 N=2,563



2

富山市の住み良さ

① 富山市の住み心地

● 9割近くの人が「住み良い」「まあ住み良い」と感じている

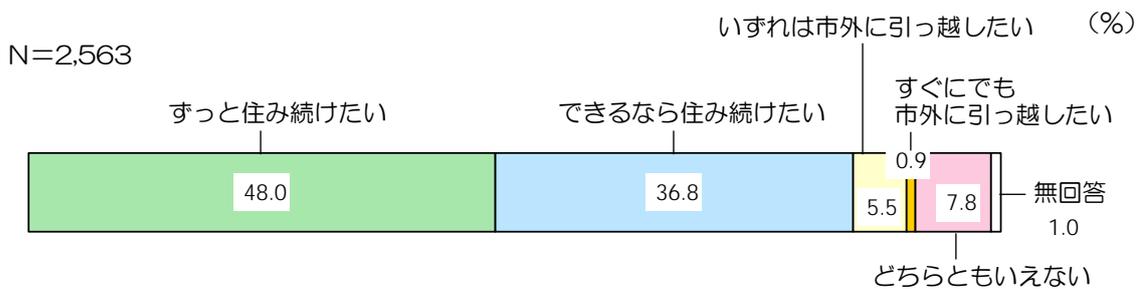
「まあ住み良い」という回答が57.0%と最も高く、「住み良い」(30.1%)と合わせると87.1%となり、「あまり住み良くない」(7.0%)、「住みにくい」(1.9%)を合わせた8.9%を大きく上回っています。



② 富山市への定住意識

● 8割以上が「ずっと住み続けたい」「できるなら住み続けたい」と回答

「ずっと住み続けたい」という回答が48.0%と最も高く、「できるなら住み続けたい」(36.8%)と合わせると、全体の84.8%の方が今後も富山市に住み続けたいと感じています。

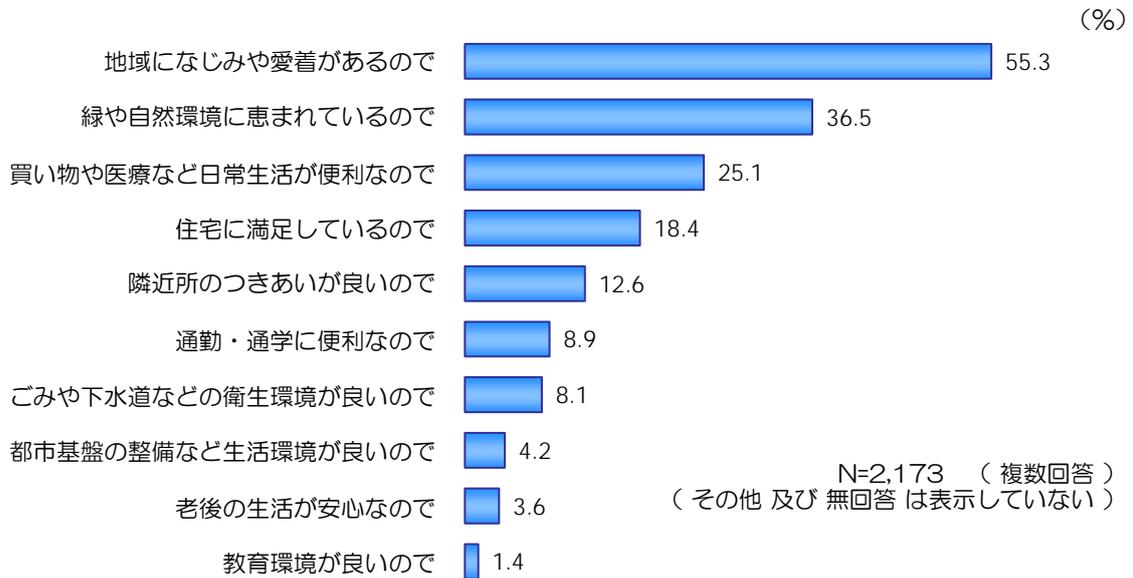


③ 富山市に住み続けたい理由 (上記②の質問で、「ずっと住み続けたい」「できるなら住み続けたい」と回答した方にお伺いしました)

● 「地域への愛着」や「自然環境」が定住意識を高めている

住み続けたい理由としては、「地域になじみや愛着があるので」が55.3%で最も高く、次いで「緑や自然環境に恵まれているので」(36.5%)、「買い物や医療など日常生活が便利なので」(25.1%)の順となっています。

住み続けたい理由

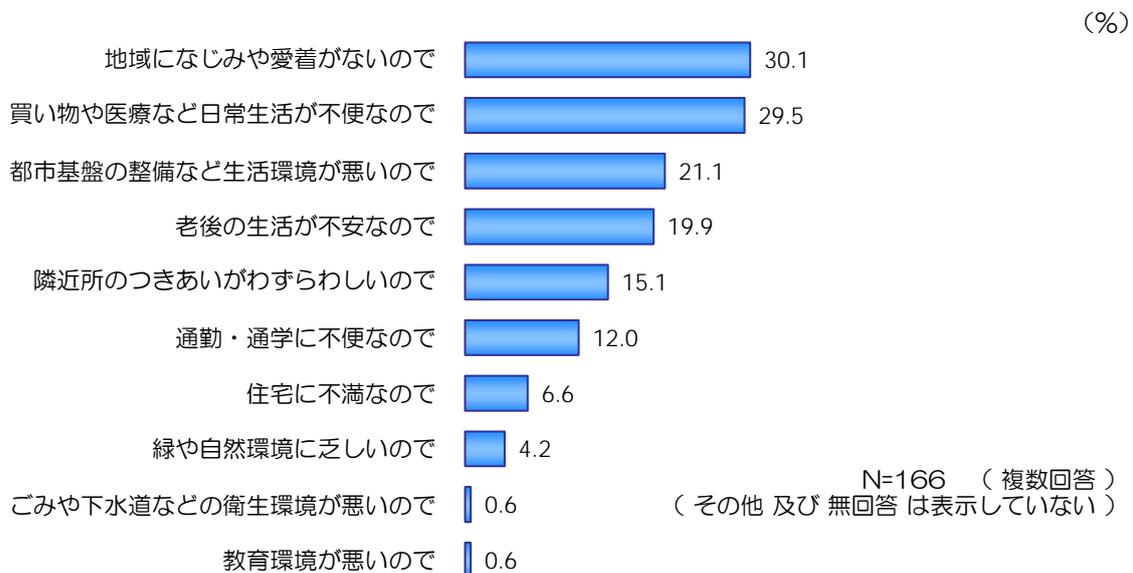


④ 富山市外へ引っ越したい理由 (前頁②の質問で、「いずれは市外に引っ越したい」「すぐにでも市外に引っ越したい」と回答した方にお伺いしました)

● 「愛着のなさ」や「日常生活の不便さ」が引っ越したい主な理由

引っ越したい理由としては、「地域になじみや愛着がないので」が 30.1% で最も高く、次いで「買い物や医療など日常生活が不便なので」(29.5%)、「都市基盤の整備など生活環境が悪いので」(21.1%)の順となっています。

引っ越したい理由



3

施策の満足度

富山市では5つの「まちづくりの目標」のもと、62の「施策」を設定して総合計画を推進しています。この62の「施策」について、市民の皆様の満足度をお尋ねしました。

回答は6段階（満足、ほぼ満足、普通、やや不満、不満、わからない）ですが、ここではそのうちの「満足」と「ほぼ満足」を合わせて『満足』、「やや不満」と「不満」を合わせて『不満』としました。

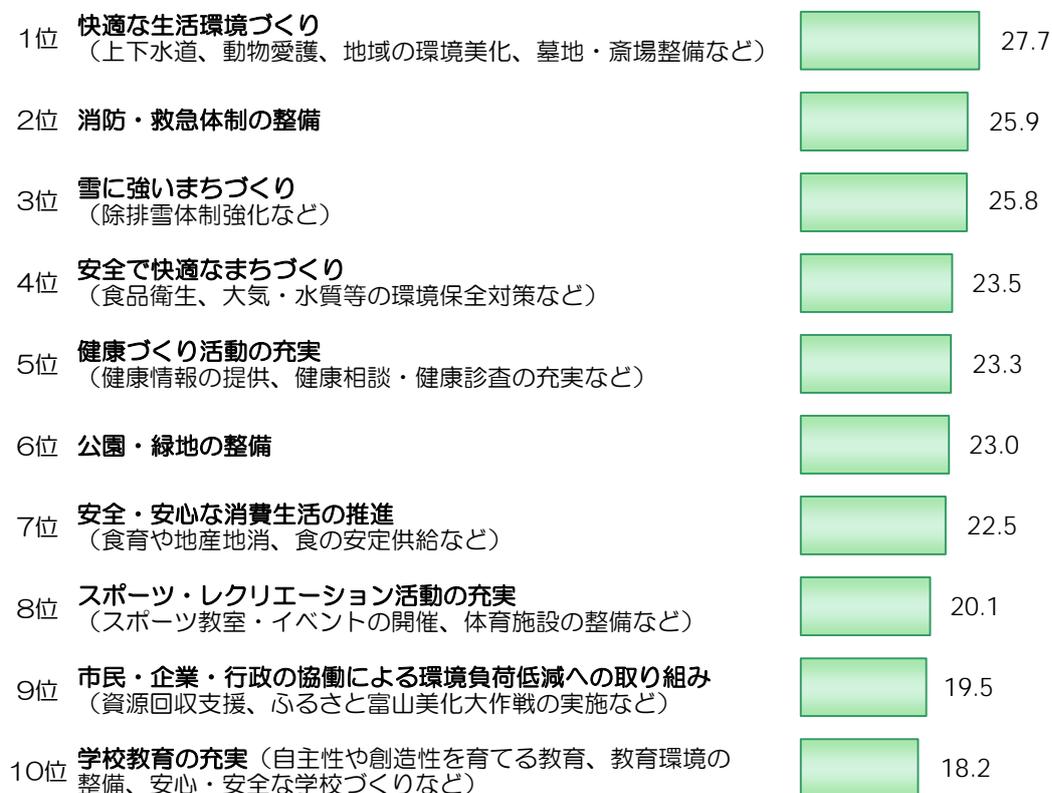
その上位10項目は次のとおりです。

『満足』の割合が高い施策として、「快適な生活環境づくり」「消防・救急体制の整備」「雪に強いまちづくり」などが挙げられています。

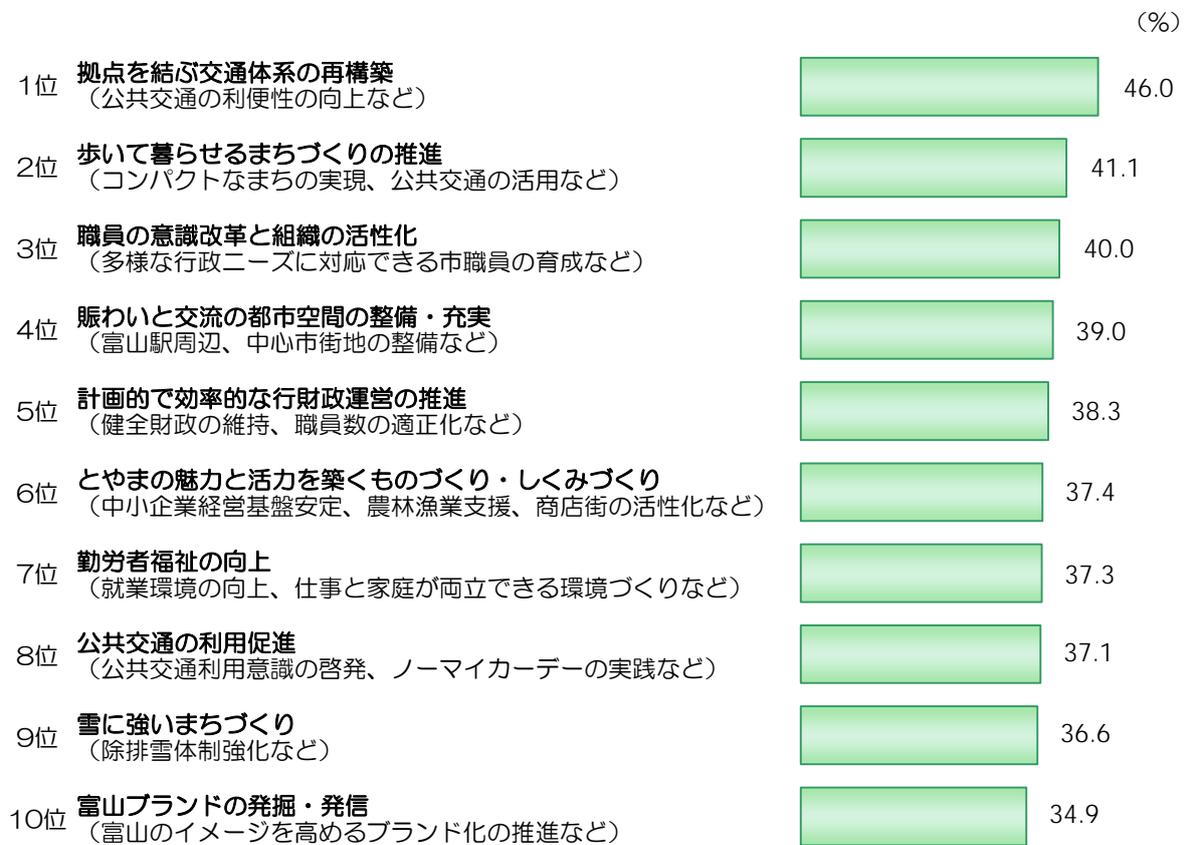
一方、『不満』の割合が高い施策には、「拠点を結ぶ交通体系の再構築」「歩いて暮らせるまちづくりの推進」「職員の意識改革と組織の活性化」などが挙げられています。

『満足』（満足＋ほぼ満足）

（％）



『 不満 』（ 不満 + やや不満 ）



4

今後のまちづくりの重点

総合計画の62の施策のうち、最も重点的に取り組むべきであると思うものを、1つだけ選んで回答いただきました。その上位10項目は次のとおりです。

最も重点を置くべき施策として、1位に「高齢者・障害者への支援」(8.8%)、3位に「保健・医療・福祉の連携、充実」(5.7%)と、福祉や医療に関する施策が挙げられています。また、2位に「計画的で効率的な行財政運営の推進」(7.1%)、7位に「職員の意識改革と組織の活性化」(3.0%)と、市の運営に関する施策が挙げられたほか、「賑わいと交流の都市空間の整備・充実」「拠点を結ぶ交通体系の再構築」といった、公共交通を活かしたまちづくりに関する施策が上位に挙げられました。

最も重点的に取り組むべきと思うもの



5

市民の普段の取り組み

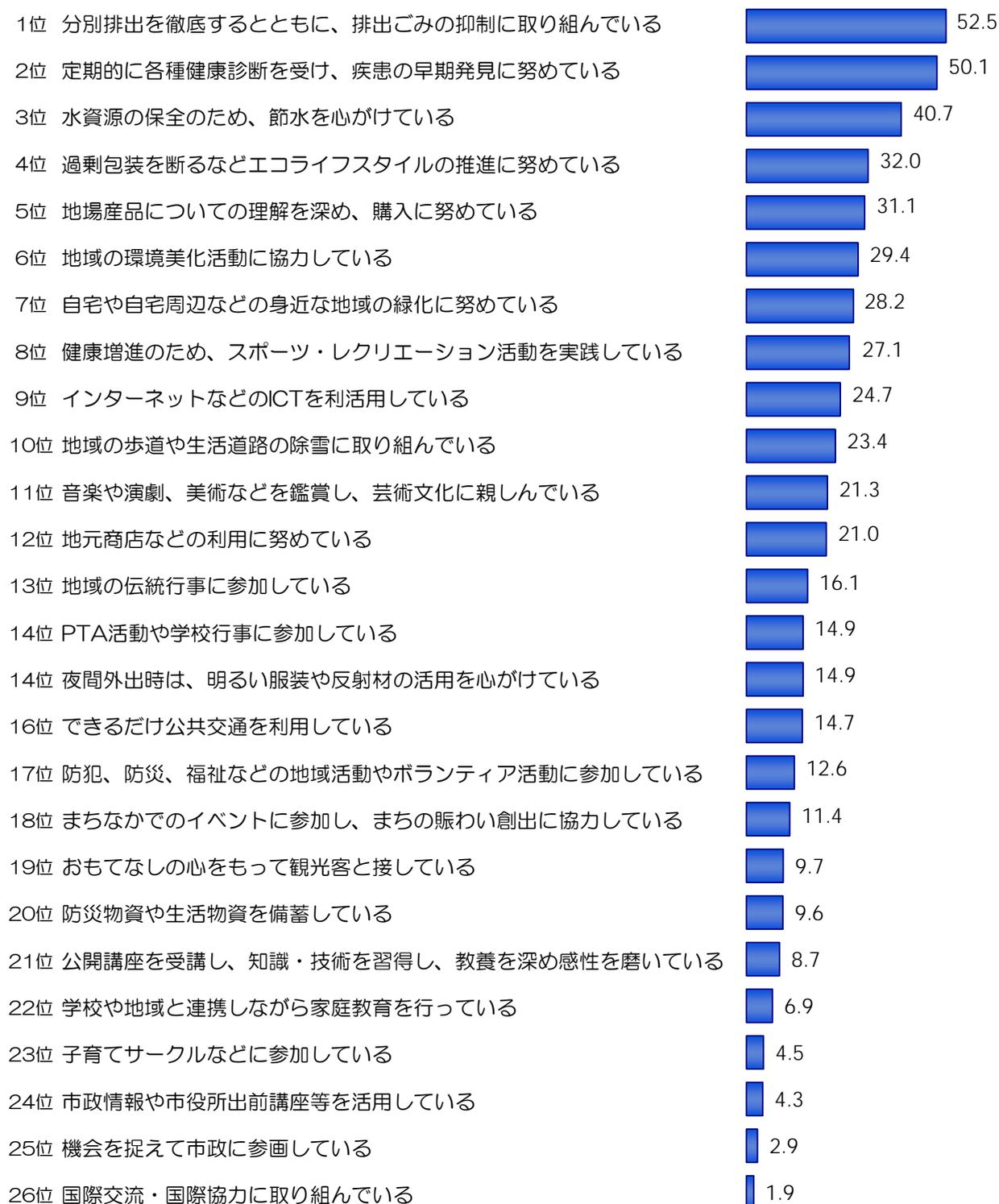
市民の皆様が普段から行っている取り組みについて26項目の中から選んで回答いただきました。その順位は次のとおりです。

上位には「ごみの分別排出と排出の抑制」「水資源の保全のための節水」「エコライフスタイルの推進」「地域の環境美化活動」「身近な地域の緑化」などが挙げられ、環境に関して身近で出来る取り組みが多く行われています。また、自らの健康維持に関する取り組みである「定期的な健康診断の受診」「健康増進のためのスポーツ・レクリエーション活動」も多く挙げられました。

普段から行っている取り組み

N=2,563 (複数回答)
(無回答は表示していない)

(%)



富山市民意識調査結果報告書(概要版)

平成 22 年 12 月 発行

富山市企画管理部企画調整課

〒930-8510 富山市新桜町 7 番 38 号

TEL(076)443-2010(直通)

FAX(076)443-2170

調査・分析 財団法人北陸経済研究所

富山市丸の内 1 丁目 8 番 10 号

TEL(076)433-1134
